明治四十五年七月一日納本發行（每月一回一日發行）
明治三十七年五月七日第三種郵便物認可

明治の女子

第九卷第七號

目次

◎與ふる事を知る特權（一）……小橋三四子
◎人格と神との關係（五）……エル、エス、ウッヅ
◎所謂新らしき女（一〇）……白井胤祿
◎病院船の思ひ出（一五）……周防蝶子
◎話し方の研究（一八）……久留島武彦
◎耶蘇の説きし救（二三）……柏井園
◎カリホルニヤ女子青年會夏期修養會（二六）……記者
◎イエシフタス（二七）……スモール女史作 小此木松子譯
◎會の消息（三一）……
△日本基督教女子青年會―夏期修養會近く、在京支那女子學生會、寄附―△東京基督教女子青年會―工女の爲めの講話會、看護婦人會―△女子英學塾△青山女子院△札幌女子青年會△ウキルミナ女學校△編輯たより

日本基督教女子青年會發行

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

女子寄宿舍

基督教女子青年會は

牛込區納戸町四十五番地

小石川區水道町二十八番地

の二ヶ所に寄宿舍を設け女學生諸子の爲に及ぶ限りのお世話を致して居ります

右の寄宿舍は門倉ふじ子、大西絹子の兩氏が親しく監督して居ります東京に家庭又は適當の保護者のない方々をして家庭に於けると同樣に勉强の出來る樣にするのが青年會寄宿舍の希望であります

入塾希望の御方は願書を監督者門倉ふじ子氏或は大西絹子氏に宛てゝお送り下さい

御同舍は一時の宿泊も許しますから、講習等の爲に御出京の方々にも宿泊の便宜を計る事が出來ます

寄宿舍委員長　今　西　糸　子

明治の女子

一、「明治の女子」は日本基督教女子青年會中央委員が發行する雜誌也。

一、「明治の女子」は一年分郵税共金五拾錢、一部郵税共金五錢とす。

一、日本基督教女子青年會は女子の衞生、社交、智識、靈性上の發達を圖るための團體也。

一、日本基督教女子青年會中央委員左の如し。

委員長　井深花子

副委員長　岡見嘉子

記錄書記　三谷民子

會計　井上友子

萬國基督教女子青年會同盟委員
萬國學生基督教同盟會委員　河井道子

明治の女子編輯主任　小此木松子

東京在住委員

津田梅子　エ、ピー、ウエスト

鈴木歌子　小此木松子

長谷川喜多子　二宮貞子

ジー、エム、フイシャー　サラ、エリス

地方在住委員

大阪　廣岡淺子　大阪　荒木幸子

京都　佐伯小糸子　京都　ミス、デントン

京都　松田道子　廣島　ミス、ゲインズ

名古屋　ミス、ヴイン、ウヰルソン　函館　ミスプランロー

幹事

日本基督教總幹事　エ、シー、マクドナルド

同　事務掛　アール、レーガン

東京基督教總幹事　エム、エル、マシユウ

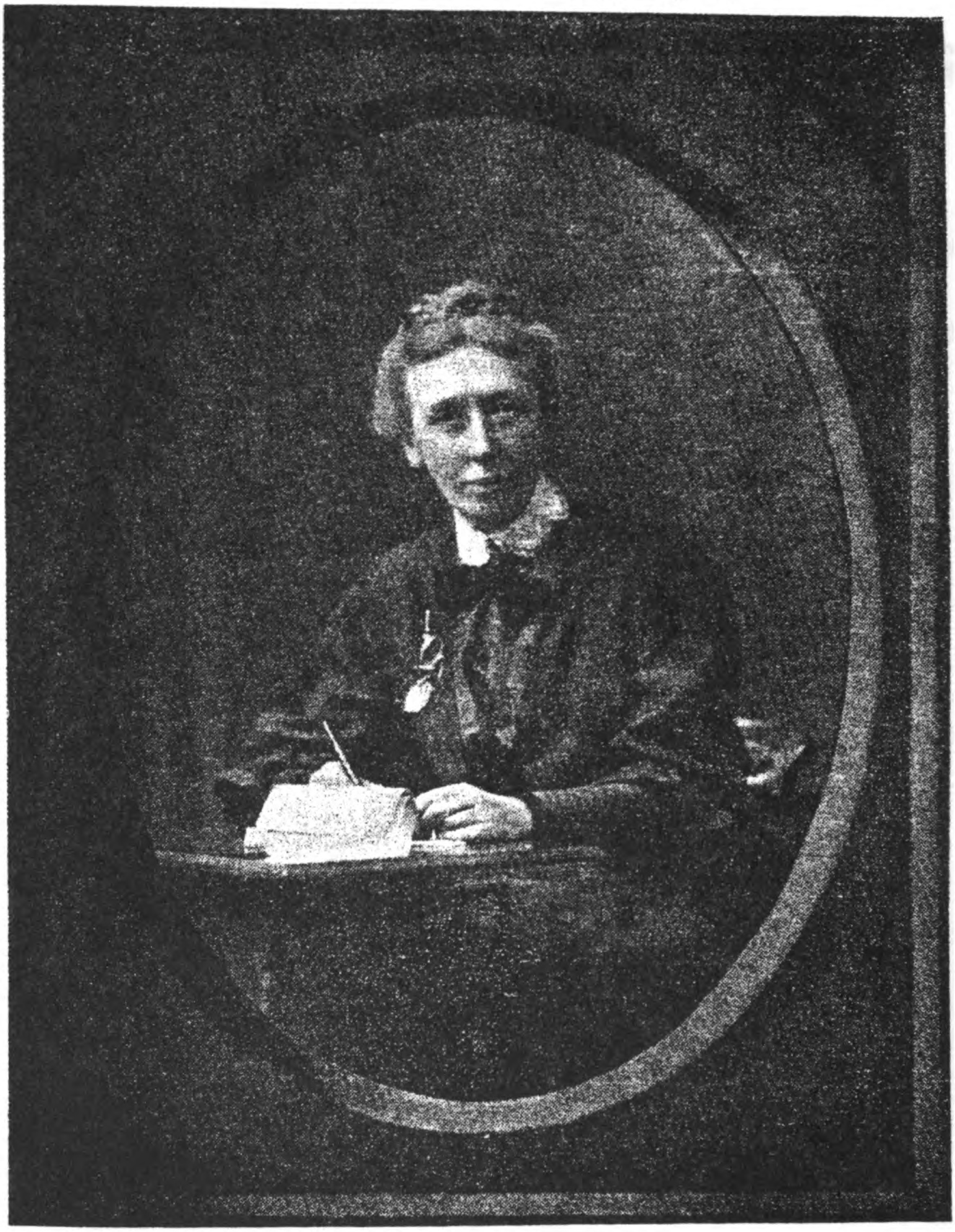
同　幹事　ウー、アール、アトネ

同　特志幹事　エム、ベーヲ

明治の女子編輯掛　小橋三四子

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

イエシユダスの著者 スモール女史と其手蹟



Yours ever
A. W. Small.

701

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

與ふる事を知る特權

小橋三四子

△外國にある東西の人

西洋の方々がまだうら若い身でありながら、支那や日本や、印度や亞弗利加等の、人情風俗も違ひ、文明の度も非常に異つた地方に行つて、何か與ふる爲めに働らいて居るといふ事は、常に尊敬致さるゝ所であります。往年私が朝鮮に旅行致しました時に至る所で日本の婦人方の攻撃を聞きました。その婦人方は朝鮮の婦人に指輪よ、金時計よと贅澤する事を教ゆる計りで、何等姉として、朝鮮の姉妹方を導いては居らぬ、導く所か、暫らく日本に歸らぬと朝鮮化して終うと云つて、日本に歸り度い、夫が早く內地勤めになればよいと希つて居る者が多いと聞きまして、誠にあさましいと思ひながらも、また無理なき事と思はるゝのでした。瓜食む國民に飯の味を教へ、白衣に代ふるに縞の面白味を傳へるさへ容易ならぬ事でありますのに、自分では夫に對する道朋友に交る道などいふ事を、一と通り心得て居るにしても、歷史を異し、風俗、習慣を異にする地に行つて、自分の標準を人に强ひると云ふ事の出來ないのは、當然の遠慮でありませう。即ちこれ等の方々は時と所とを超越した標準を持つて居らぬのであります故、一と度日本の國境を出づれば、自信を以て人に教へ、頒つべき何物をも持たないのであります。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

△使徒にも非ず自主の人にも非ず

試みに學校を出でゝ、地方に敎師に赴かんとする人々に對し、もし一定の敎科書を持たずして修身を敎へよと云へば、先づ自分の理想を標準として敎ゆるより致し方がないのであります。然るに我々は缺點だらけの人間であります。いかほどよく感化を及ぼした處で、その人間の理想以上には生徒を形成くる事は出來ないといふ事になります。しかもわが理想なるものは如何と問はれて、當惑しない人が幾人ありませうか、人に與へんとするには先づ自分が何か確かなものを持たねばなりません。西洋の方々が強き自信を以て、わが周圍を化して行く事が出來るのは、即ち我れに確かな信仰を持して居るによつてゞあります。その人々の胸裏には國をも人種をも時をも超越して、永遠より永遠に亘つて眞理なる神の道が明らかにせられて居るからであります。この頃わが友なる若き詩人は「おのれわが主ともなり得ずまた誰の使徒ともならぬ寂しさに居り」と、歌つて居ります。誠にこれはこの詩人のみの心ではなく現今の多くの人々の心と見らるゝのであります。

△與ふる事を知らぬは如何

自分は神を知らなくとも何も他人に對して惡い事をするのではなし、世の中に迷惑になるやうな働らきをして居るのではないからよいではないか、神を知つて居るといふ者が、却つて自分よりも卑しき行爲をして居るではないか、先づ我々は自分の智識を啓き、缺點を改めなければならぬと申します。これは惜しき事には部分を見て全體を見ぬ云ひぐさであります。一と度目を揭げて神を知れる國民と、知らぬ國民との相違を見たならば如何でありませうか。自分のみが惡い事をしなければよいといふ代りに、自分は善い事をしなければならぬ。自分のみが高くなればよいといふ代りに、人をも共に助け導きたいといふ相違があります。東京の場末に行くと幾多の工場がありますが、其處には智にも靈にも餓えた多くの兄弟姉妹が、僅かに糧を得ん爲めに、働らき疲れて居るのであります。しかも一方には敎育を受けたものが、別段職業を執るのでもなく、人の爲めに働らくのでもなく徒らに父兄の金錢を費して着飾り

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

遊び暮して居つて、しかもなほ足らずと不平を云つて居るのであります。何故これ等の人々の眼に哀れなる多くの兄弟姉妹あるのが見えないのでありませうか、なぜわが身が幸に衣食に窮せずして、教育をも、受けられた幸福を思ひ、その幸福を頒つ爲めに働らかないのでありませうか。即ち敎育によつて僅かの智識は得たにしても、盡くる事なき眞理の鍵を與へられないので、わが心なほ何物かを求めて息ひなく、從つて他を省る暇がないのであります。

△何人も與ふる位置を望む

人は自分が何等か人に善事を盡した、人の爲めに働らいたと思ふ時は云ひ知れぬ富んだ氣分と、われに隣ありといふ賑やかな氣分になる事が出來ます。「受く事より與ふる者は幸なり」とはこの世智辛き世にもなほ眞理であります。然し何人も與ふる位置と貰ふ位置の何れを撰ぶかと申せば、與ふる位置になりたいと思はぬ者はありません。即ち與ふる事を知る特權を得て、永久衰へを知らぬ富者となりたいと希ふのであります。この特權は何處にありや、どうしても、この道はわれも人も共に神の子たりとの自信と使命とを與ふるクリストの敎へによるに若かじと思ふのであります。然しその道に致るには、人の性質の異るまゝに發明の遲速もあり、またその經路をも異にするのは自然であつて、道は此處に在り道は此處に在りと叫ばれても、その內容を自ら充たすに非らざれば、一向空な事のやうに思はるゝてありませう。

△求むれば必ず與へらる

聖書にこういふお話があります。旅人が晩遲く村に辿りついて、或家を見出しました。疲れては居るし餓えて居る折柄とて、氣の毒と思ひながら、その戶を叩いてパンを求めた、家の者はうるさいと思つて斷つた。旅の者は餓えたる餘りに、二度、三度なほ戶を叩いて求めたので、遂に內から戶を開いて、パンと水とを與へたといふ事であります。私は日々幾度かこの話を思ひ出すのであります、自分も何か賴まれゝばそれ丈け仕事が殖えて、面倒には違ひないのでありますが、その人の必要が明らかにせらるゝ事とて、先づ賴まれた事からして行かうと思ふ。また自分も隨分さま〴〵の人の助けを求めなければ

ならないので、人の忙しい時間を戴くのは、いかも恐縮故、止めやうと幾度も思ふが、然し求めずに與へよといふのは、なほ無理な注文であると考へ直して、人にお願ひする。さうして人々も自分の願ひを大抵の場合は叶へて下さる、神の道もこの通りであらうといつも更らに深く感ずるのであります。誰れの使徒ともなる事が出來ないといふ詩人は恐らくはなほ求むる努力が足りないのではあるまいか、或は衣食のそれの如く我が靈の問題を差迫つた事として取扱はず、多少遊戲視する傾きはないであらうか。旅にて餓え、見知らぬ人に食を求むる程に切實に求むる心がないのではあるまいか。眞實に求むる者には往々思ひがけなき希望も屆くものである。神の道を知るといふ一大事も、求むる者には必ず叶へらるゝものといふ事丈けても信じて戴きたい。

△神の使徒即ち自主の人

神の道を知つて其の使徒となる時、始めていづこいかなる人の前にも憚らず、わが理想を標準としてこれを與へつゝ、周圍を形成つて行く事が出來ますしかも富者が徒らに人に金錢を與へて依賴心を起させたり、不完全な人間の理想に他人を嵌むるといふ恐れもなく、誤つた文明を未開の國に傳へるといふ憂ひもなく、絕對善に向つて、人を國民を導く事が出來るのであります。而して自分も如何なる國に生活して居つても、最も完全なる、最も高尙なる神の生活に近づいて行く事が出來ます。たとへ人が紐育の中央に住うても、倫敦の中心に居つても、自分一個の福利の爲めに汲々と働らいて居るのみであつたら、自分の奴隷とならんが爲めに都市の煤烟に命を縮めつゝある馬鹿らしき一生であります。然しわが中には人に與へて何物にもまして價値ありと信ずるものを蓄へて、亞弗利加の土人を相手にし、朝鮮の子供を世話して暮らす事は、それが人類の神に近づきつゝある大なる事業であるを思ふて、わが心は富み、わが心は強くして、何人にも捉へられぬ自主の人となり得るのであります。神の使徒即ち自主の人であります。

談叢

人格と神との關係

エル、エス、ウッヅ

氏の名は深遠なる宗教上の著作者として屢々耳にする處であるが、近く令妹同伴日本に來遊の序を以て一夜日本基督教女子青年會に招待して講演を乞ひました、此處に掲げたるはその大要であります。氏はかの エリサベス、 フライの子孫にして英國の名士として、また著術家として有名なる方であります。 文責記者にあり。

△大切にして且つ趣味ある問題

今日は研究の盛んな時代でありまして、餘程むづかしい問題でも興味を以て研究せられつゝある事は色々あるので御座います。そして其樣々の問題の中でも「神と人格との關係」は殊に大切な且つ趣味のある問題であるといふことは、今更ら私が喋々するまでもないことゝであります。私は今この趣味ある大切なる問題に就て僅に一言をお話して見たいと思ふので御座います。

それで、今私共が或る一人の人を知らうと致しますには、只だ單に、他人の評判や噂によつて其人を知るよりも、直接に其人に接して其人を知る方が本當であるといふとは勿論であります。それは何故かと申しますならば、人格といふものは只だ人の表面に現れた事柄よりも、非常に深い面白いもので御座いまして、人の成功の秘密なども能く考へて見ますと、必ず其人格に依るといふやうな事も疑のないのであるからで御座います。

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

△人格の二方面

しかしながら、この人格といふものは頗る面白いものでありまして、且つ大切なもので御座います。けれども私共が其れに就て知り得る所は誠に少ないので御座います。假令ば今玆に「人格とは何ぞや」といふ問を受けますならば、誰でも之に對して明確に即時に答へ得ることは容易でなからうと思ひますけれども、又た一方から考へて見ますならば、それは難かしいことに相違ないと致しましても、又た不思議なことの樣に感じましても、何となく私共の心の中に色々の方面からして、自然に了解せられるやうになるであらうと感ぜられるので御座います。私共人間といふものは各自の衷に二個の性格を有つて居るもので御座います、即ち其一は其品性を誘ふて之を卑くするもの、他の一は其品性を導いて之を高めるやうにするものでありまして、言ひ換へれば、**私共の性格は、二つに分れて居りまして、幸に一方の種類に從て修養すれば段々に其品性を高尙にする**ことが出來ますけれども、若し不幸にして他の方に從ひますならば、其れと全く反對になつて其品性は段々卑くなつて仕舞ふといふので御座います。

△人間には自由意志あり

然るに、私共人間には自由意志といふものがありまして、何事でもこの意志の自由によつて自由に選擇するので御座います。之は私共人間と動物と相違する點で御座いまして、動物ならば萬事を自然に委せて自分の意志を以て天然に逆ふといふやうなことは更らに無いのであります。けれども私共人間は自分の意志に依て自由に自己の品性を高めるものに從ふことも出來るのであります。又た、動物は常に境遇の制壓に服從して居るのでありますけれども、私共人間は自由意志をもつて居りますから、決して境遇に制せられるやうなことはありません。却て境遇を制して行くことが出來るといふことは確な事實で御座ります。其他、私共人間には眞僞善惡を識別する所の能力があり、又た自己の希望を擇ぶ能力もあります。斯くの如く、私共人間には充分に意志の自由と共に撰擇の能力も賦與せられて居るのであります、然るに人間は度々正當に其能力と自由とを使用する事が出來なくて、高き理想を捨て、動物と同じ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

やうに、常に境遇のために、制せられて生活するといふことは、誠に殘念なことであると思ふので御座います。私共自身の經驗から考へて見ましても、この私共人間に自由意志があるといふことは、一點の疑ひの無い事實で御座いまして、假令ひ人間が如何なる境遇如何なる生活に在ると致しましても依然として人間であります以上は、其理想とする所に從て生活をすることは必ずしも出來ないことではない筈と思ふのであります。ところが實際の事實は中々さうでなくて、高い理想の性格は如何すれば卑い性格に打ち勝つことが出來るかといふ事が、實に大なる問題であるので御座います、掻い摘んで申しますならば、私共は人間でありまして全く動物とは違つて、意志の自由もあり、撰擇の能力も與へられて居りますから、私共のうちには相反對する二種の性格がありましても能く高いものを以て卑いものを制することが出來る筈でありますのに、度々高いものが卑いものを制するとが出來ないばかりでなく、却て卑いものが高いものに打ち勝つ場合が多いのは抑も何故でありませうか、さういふ點から考へて見ますと、人間は自分の勝手によつて自由意志の無いものと同じ様に、眞の事をしないで却て僞を行ふて段々に其品性も卑くなつて仕舞ふのを認むるの外ないのであります。一言で申しますならば、理論の上から見ると私共人間には自由意志のあるものといふことを否むことは出來ませんけれども、現在に見る此人間の實際上からいふと、之に反して大抵は皆其の様なものでないやうに見へるではありませんかといふことに歸するのであります。

△卑き性格に勝つには如何

私共人間の實際の有様は、果して只今申しましたやうなものであると致しますならば、私共は如何して卑い性格に勝つ事が出來ませうか、大に考へねばならぬ問題であります。そして若し其道を得ることが出來ませんならば、即ち、私共は其卑い性格に打ち勝つ方法がありませんならば、私共は誠に動物と違はないのでありまして、本當に精神的の生命を持つて生命ある生活をすることは出來ません、只だ僅に動物のやうな物質的の生活が出來るのみに過ぎないので御座います、そういふことでありますなら、私共の生涯は誠に憐れなものでありまして、此様な

生涯を送ることが人生の常態でありますならば、非常に殘念な譯では御座いますまいか。然るに私共人間は單に人間であるばかりでなく、同時に又た神の子で御座りまして私共の人格と神との間には切つても切ることの出來ない精神的の關係が結ばれて居るので御座ります。そうて御座いますから、私共の裏には如何に卑い性格が跋扈して居ましても、其神の力によつて凡ての低い、理想にも罪惡にも打ち勝つことが出來るのであります。即ち私共のうちに在る相反對して居る二個の性格に就ての疑問を解釋する鍵はこの神の力に依るといふことであります、そして此の眞理を敎ゆるものはキリスト教の外にないと確信するので御座います、

△神の靈我が性格に宿る事

私共は相反對して居る二個の性格を有つものでありましても、一度び神の靈が私共の高い性格の上に加はりますならば、高い性格は、卑い性格を壓服して、始めて眞の生命を得、又た眞の生命に連つて、見違へます程の立派な人格を得るやうになることが出來るので御座います。キリストと弟子とのことに就て考へて見ますと、キリストが此世をお去りになる少し前に、弟子達に向て暫くすると弟子達と別れねばならないけれども、誠にキリストを信ずるならば決して離れないで無限に其ものと共に住ふといふことを約束なさいました。其時に弟子達は何の意味でありますか能く分りませんでした、又たキリストと實際に離れるやうになりました時も、其事を信じませんでした。けれどもキリストが亡くなられました後に、謙遜にして神の御前に出て祈禱をいたしました時に、始めてキリストが仰せられました通りに靈に於ける交りを經驗することが出來て、キリストの遺言の誤らなかつたことを實際に認めたので御座いました。そして弟子達は其時から從來とは全く見違へるやうな高い清い強い品格を有つやうになりました。其感化は遠く今日にまでも及んで居るので御座います、之を見ましても、私共は其弟子達の向上的性格は全く神の靈に占領せられまして、其の爲に未だ例のない清い強い正しい生活を遂げまして、其感化を後代にまでも殘したのであると認めるのを否むことが出來ないと思ふので御座います

△神の思召

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

思ふに、神はすべて人間を通して其御旨を此世の中に現はしたい思召である樣に見へます。けれども人間は常に謙遜であつて自由に自分のすべてを神の前に献げませんならば人間を通して神の御旨を此世に現はすことは少しも出來ないので御座います。そうですから私共の心と神の靈との關係がありまして常に神の靈の力が私共のうちに活動して居りますならば神の御旨は私共人間の行によつて現れるやうになる筈であります、即ち私共は各其人格を通して神の御旨を全く現はし得る迄は、私共の生活は未だ本當に其目的を達たものであるとは云へないのです。

△只時間と決心とにて

しかしながら、今述べましたやうな高い理想を全ふすることは餘りに困難で、到底不可能ではありますまいかといふ疑を起すものもあります、その疑は無理もないことで御座いますが、それは只だ弱い自分のみを顧みますから起るので御座いまして、假令い其れは困難でありましても、キリストに頼りますならば、キリストは其教訓によつて、又た御自身の生活を模範として、進むものは確に其の高い處に達し得らるゝことを明に示されて居りますので御座います。實に其は困難なことで御座いまして、私共には嶮しい路で御座います。けれども、私共は力を盡して一心に其嶮しい路を登らなければならないので御座います、而して其れはキリストに頼りますならば必ず登り得らるゝ路で御座います。二三日前に私は東海道を旅行しまして、夜明けに雪の冠を被つて居る彼の崇高なる日本一の富士山を見ました、其立派な美しい有樣は本當に言ひ盡されない程で御座いました、其秀麗優崇なる樣子を見ますと此の世の俗界からは遠く離れて居るやうに見えるので御座います、けれども、私共は時間を費しますならば、又た決心さへ持ちますならば、其の富士の高峯の頂上にても達することが出來るので御座います、それと同じやうに私共はキリストの敎に從て其の足跡を踏んで、耐へ忍んで各自の十字架を取つて進みますならば、最後には必ず神の御旨に適ふ者となることが出來るので御座います。私は、私共の裏に常に戰つて居る二個の性格の戰が、終に高い性格の勝利に歸して卑い性格と打ち勝つて高い理想に適ふ生涯を送ることは、此れ以外に其道は無いといふことを深く信ずるもので御座います。

所謂新しき女

風江生

▲昨年文藝協會がイブセンの『人形の家』を演じてから、ノラと云ふ女主人公が新しい女の型として取り沙汰せられ、此程またズウデルマンの『故郷』が公演せられて、其の女主人公マグダが世間の評判になつて居る。殊に其の筋から之に訂正を加へさせたと云ふので一層世人の注意を惹いたやうである。自分は世間で餘り評判が高いから過日『故郷』の脚本を友人から借りて來て、面白く一讀した。其れから其の感想を書いて見る氣になつた。

▲多くの方は既に此の劇を讀まれたのであらうが、順序として先づ其の筋を一通り書いておかねばならぬ。或地方の首都に住んで居る退職陸軍中佐シユワルツエといふに二人の娘がある。姉がマグダで、妹がマリイ。其の實母は早く死んで繼母がある。其の地の教會にヘフターデキングトと云ふ學問もあり德望も高い少壯の牧師があつて、マグダと交際した結果遂に想ひを懸けて結婚を申込んだ。中佐は牧師を厚く信任して居る一人であつたから喜んで之に贊成した。然るにマグダ自身は餘り好まずして之を辭つたところから、親の怒りに觸れ、到頭家を去つて了つた。それから彼女はオペラの歌手にならうと決心して伯林で修業をして居る中に、フオン、ケラーと云ふ男と關係し一時夢のやうな日を送つて居た。然るに其の男が間もなくマグダを棄てゝ去つた。其の時マグダは姙娠して居たので、其の子を懷いて樣々の苦痛を嘗めた。非常に氣の勝つた女であつたから其れが奮發の機會となり、遂に名高い歌手となり、其の社會では大いに幅の利く身となつた。其れが十二年目に故郷の音樂祭に招かれ、知事は其の手を貸して式場に上ると云ふ始末で、凡て女王の如くに敬せられた。名が以太利名にしてあるから誰も昔のマグダであることは氣が付かなかつたが、叔母フランチスカが其の宴會に招れたので之を見知り、牧師に其の旨を告ぐると、預ねて家出した娘の爲めに心

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

を痛め、體までも害ふた中佐を氣の毒に思つて居た牧師は、中佐の許に行いて家に歸つた娘を兩手を擴げて歡迎せよと勸め、自分は以前の關係あるをも忍んでマグダを訪ひ父の家に歸るべきを說くことを約束した。すると其の夕マグダは馬車に乘つて中佐の家の門前に來り、內の樣子を伺つて居る。妹と繼母も父に勸めて早く迎へ入れよと迫り、其れからマグダは久しぶりで我家の人となる。まだ落ち着く氣にならぬところに牧師が來て、色々に說く。始めは信ぜないが、遂に其の犧牲的精神に服して家に留ることゝなる。其の翌朝以前關係のあつたケラーが花束を持つて遣つて來る。彼は其の頃此の市の參事官として人望を得て居るのである。其れからマグダは思ひ切り卑怯な寢返者を辱める。其處へ父が來て秘密が洩れ、マグダは在りし昔の事共を父に語る。激し易き父はケラーを殺さんと企てる。然しケラーが自ら遣つて來て、改めてマグダと結婚しやうと提議し、中佐は其れて折合ひ、マグダも父や子供のことを思ふて然うしやうかと考へ、ケラーと將來のことを語ると、子供に對する二人の意見は到底一致しないので、遂に物別れになる。そこで父はマグダに色々說いて見るが、云ふことを聞かないので、激怒してピストルを以て殺して了うと騷ぐ。其の時持病の中風が起つて卒倒し、遂に死んで了う。マグダは「あゝ歸らなければよかつた」と絕望の餘り嘆息すると云ふやうな筋である。

▲文藝上の價値から云へばイプセンの「人形の家」の方が優つて居るであらう。人をして考へさせる力も是よりも彼の方が深い。然し舊い思想と新しい思想との戰ひを描いた點は同じである。ノラとマグダとは其の境遇も異り、其の經歷と違つて居る。然し彼等は何れも是れまでの社會組織や、道德の見解や、家庭の關係では滿足が出來なくなつたのである。彼等の遣り方には穩かならぬところがあつても、其の思想や見識が進步するに從ひ、舊のまゝの生活では滿足の出來なくなつたのは自然であらうと思ふ。發育の非常に旺んな處女時代には、去年まで十分であつた着物も今年は裄丈が合はなくなる。生命が成長發達すれば、從來の形式には當て箝らなくなるであらう。今日の我邦の社會には著しく此う云ふ有樣が見える。道德にしても舊い形式では間に合はなくなつたが、さて新しいものはまだ出來上らず、彼にせ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

んか此れにせんかと其の撰擇に煩悶して居る姿である。此の點から見ると此の劇は我國の社會にも當てはまるものがないでもない。臭いものに蓋をしたり、見て見ぬふりをしたりして、一時を彌縫せんとするが如きは卑怯である。滿足が出來なければ習慣に拘泥せず、眞實に滿足の出來るものを求め、安心の出來るところに往くが正直である。ノラやマグダが新しい女の型であるとすれば、其の進取的の氣分、正直に赤裸々に大膽に、眞實人心の滿足し安んずるところを求めんと努力するところは大いに取るべきであらうと自分は考へる。

▲然らば彼等の不滿足なる點は何處にあるか、如何なる動機から此處に至つたかと云ふと、是れは個人の自由、自我の權威を主張する近代思想の現はれに外ならぬ。個人的自覺をなした所謂新しい女性が、其の權利を伸し、其の地位を高める爲めには、どうしても因襲的束縛を脫せねばならぬと焦慮るのである。自由と服從との思想上の矛盾は、家庭問題婦人問題等に最と露骨に現はれる場合が多い。『人形の家』にせよ、『故鄉』にせよ、皆な此の場合の衝突を描いたものである。『人形の家』の終りの方に、ノラが夫や子供を棄てゝ家を出やうと云ふ場合に、夫ヘルマアが『夫や小供に對する神聖な義務が棄てらるゝか』と尋ねると、まだ別に神聖な義務があると云ふ。其れは何かと問ふと、『自分が自分に對する義務です』と答へる。『何よりも先きにお前は妻であり母である身だ』と云ふと、『そんなことはわたしもう信じない。何よりも先きに私はひとりの人間であつて、それはあなたも問題です。――少くともさう成らうと私は試つて見る積りでゐるんです。大抵の人は皆あなたと同じ意見でゐるのは、私も知つてゐます、書物にもさう書いてある。併し之からはわたしもう人が云たり書物に書いてある事ではとても滿足が出來ない。自分で物を考へて、自分で其れを明にしやうと試つて見るんです』と答へる。勿論此の云ひ前には道理がある。マグダも『自分の本性に戻り、十分に我と云ふものゝ上に立つ』と云つて居る。斯う云つたやうな個人的自覺は人として誰れても持つて居なければならぬ。

▲然しノラが自分に對する神聖なる義務と云ひ、マグダが自分の本性に戻ると云ふ其の自分なるものは一體何んなものであらうか。個人性と云はうか、人

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

格と云はうか、兎に角彼等は自分を何う云ふ風に解したのであらう。自覺したことは好いが、人生を正當に解釋し得たであらうか。其の自覺後の行動を見ると此の邊に疑ひを挾まざるを得ない。要するに彼等は懷疑的個人主義に感れたものと云はねばならぬ。其の結果は、或人がイプセンの劇に現はれて居る女性の態度を評した如く『婦人は先づWomanlinessを棄て丶仕舞つて、今までの如く種族保存の必要物として單に母として生きる事の代りに自分自身のために生きやう、夫や子供に對する義務を拒絶して了つて、個人たる自己以外に對する一切の責務を脱しやう、今までのやうに甘むじて他の犧牲となるに堪へられない。愛や同情を唯一の生命として男子の爲め唯だ「愛すべき者」として生きむには、情の力あまりに弱く、理智の力あまりに鋭い』と云つたやうな有樣になるのである。個人主義も自我主義も此まて進めは破壞である。總ての女性が皆な自覺して此う云ふ風な態度を取るとしたならば、其の社會は何うなるであらう。斯る生活は果して樂しいものであらうか。夫も子供も棄て丶家を去つたノラが、世の中に出て丶樣々な苦勞をなし、自分で考へ、自分で理會した曉は、果して何處に落ち着くであらう。何うしても此んな懷疑的個人主義で滿足することが出來やうとは思へない。

▲マグダの生涯はノラの後日譚と云つたやうなところがある。マグダの取つた徑路をノラもまた取りさうに思はれる。二人ともに意地の强い反撥力の烈しい敗けぬ氣の女である。マグダは『小さくなるなんてそんな事は私不得手なのです。相手は必ず負かしてやらなくちやならない。歌つて〳〵歌ひ負かしてやる。一人殘らず私と同じ氣持になるまで歌つてやる。それが私の歌ひかたで、それが私の生きて行く道です』と云つて居る。此う云ふ意氣込みである。是れが近世生活に成功する秘訣と心得て居るのである。實際此う云ふ氣象の女は假令體は小さくても舞臺一杯に大きく見せる力のあるものである。精力主義で遣つ付けるのである。確かに豪いところがある。壯んである。然し常に弦を張つて居る弓のやうで、餘裕がない。輪廓が明か過ぎて餘韻が乏しい。其の元氣好く語り、快活に笑ふ奥に深い悲哀の響きを帶びて居る。此う云ふ女性に對して床しいとか、神々しいとか云ふやうな心持は起り難いであらう。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

▲「故郷」の主眼は其の名の示す如く、家族主義と個人主義との衝突である。家族主義の事は我國に取つても大問題である。識者も大いに頭を惱して居るやうである。其の筋で此の劇を心配したのも此點であらう。然しマグダの心理を考へると、いくら個人主義で頑張つて見たところで、血を分けた親や姉妹の情愛の紐を强ち切ることは出來ず、之に對する責任から自由になることの出來ないことが暗示されて居る。然し中佐は頻りに親權を振り回はす、マグダは之に從はぬ。何うも自我を貫かうとするから衝突が起るのである。そして此の間を融和せしむるものは基督敎の牧師であつた。我國に於ても此の邊にもつと注意して硏究する必要があらうと思ふ。然し此には之を論ずる餘白がない。マグダが子に對する態度について夫と斷然手を別つところは痛快である。また彼女が道德自由說についても論じたいと思ふ點があるが見れも止めねばならぬ。

▲最後に一つ云ひたいと思ふは、マクダが牧師に接して得た感想である。『あなたの胸には蔓が生えてゐて他人の胸に卷きついてそれを引き寄せる力を持つて居る。……それをあなたは自分の爲めになさるのぢやない。あなたが何れほど大きな力を持つてゐらしやるか、恐らく御自身には分りますまい。それがいゝのです。それがうれしいと思ひます。……世間の人はみんな獸ですよ、愛するにしても憎むにしても、其の中であなたは人間です。あなたの傍に行くと、其のものまでが人間のやうな感じを起します。ねえあなた、昨日入らしつた時には、私にはあなたが小さく〳〵見えたのですよ——けれども其のうちにあなたの身から一種の力が見はれて來て、其れが次第に大きくなつて、今ぢや私に取つては大きすぎる程になりました』と云つて居る。其れは牧師の自己犧牲の精神に動かされたのであつた。自我の張りつめたマグダは、自己を無くする人格の前に出て初めて人間のやうな感じをしたとある。失戀のマグダは飽くまで自己を立て貫くものとなり、失戀の牧師は何處までも自己を犧牲するものとなつた。眞實の滿足、限りなき喜悅は之を何れに求むべきであらうか。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

感想

病院船の思ひ出

周防蝶子

▲私は日露戰爭の時病院船に乘り込んで、大連と宇品間を往復百四回も致しましたので、平時に經驗し難い苦艱もありましたが、それによつて一層强く看護婦の使命といふ事を思はせられました。

▲負傷兵が病院船に參ります迄は、「どういふ風かと申しますと、元來戰線には衞生隊が居つて、負傷兵の世話を致しますが、然し大抵の傷ならば、戰友同士が助け合ふので御座います。兵士は各自内懷に三角巾とガーゼとを用意して居るので、戰友の斃れて苦しがつて居るのを見ると、自分の痛さをも忘れ、匍匐ひ寄つて互に繃帶を掛け合ふのであります。其處に衞生隊が來て重いのは擔架に乘せて、野戰病院に送るのですが、「此處は敵彈も來て、非常に危い處から陸軍の男子の方々が詰めて居つて看護し、重きは更らに戰線から程離つた病院に移すのであります。そこは天幕も張つてあり、設備も稍完備して居り、もし天幕で足りなければ、其處等の民家の空いたのを假りに病院に致すのです。此處には看護婦が居つて、病床日誌もつけ、繃帶もかけかへ、いよ〳〵いけない部分は切斷し、また骨の挫折したのには副木をも添え、日露戰爭當時ならば、更らに旅順、大連の方面に送るのです。當時大連の病院等は一萬人を收容する事が出來る病院が諸所にありましたに拘らず、なほ不足を告げ、擔架の儘で、道路に寢かして置く、繃帶は血と膿とで固つて、それに蠅はたかる蛆はわくといふので、傷は愈々重くなるといふ次第です。

▲扨病院船は港の近くに碇泊して、重傷患者を收容し、この人々に相當の手當をして、運送船で本國に返へすといふのですが、日露戰爭當時は右のやうな有様で、後がつかへるので看護しながらその船で送り届けて居つたのです。此處には多數の看護婦が乘り込んで居ります。船に移す負傷兵は隨分重傷の上に、且つそれ迄はろく〳〵看護する暇も無いので、背嚢は背負うて居りませんが、まだ血と汗とて汚

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

れた軍服の儘で、髪はぼう〳〵として居り、顏は垢だらけて、僅に眼と唇とが光つて居るのみであります。これ等は最重傷なら赤、重傷なら靑、輕傷なら白といふ風に腕に印が付けられて居るので病床日誌をも見る事の出來ない折柄とて、取敢へず其の印でそれ〳〵分けて、看護に取掛ります。先づ汚い軍服を脫かせ、牛乳とかスープ又は酒とかいふ興奮するものを與へて元氣をつけ、顏を洗はせ、爪をとり、頭を刈つて、さて診斷してそれ〳〵手當を施すのですが、砲彈創は普通の創と違ひ、砲彈の散る際にうけるので、三十八ケ所四十ケ所といふ創を負ふて居り、それを一々繃帶するので、一と通りや二た通りの骨折りではありません。

▲何しろ三百人からの患者を僅かに二三日の航海の内にかやうに看護し、その上病床日誌を付けなければならないのでどんなに熱心に働いても眠る暇も食事の時間もろくろく得られないのであります。その間々には少しでも病人の苦しみを紛らさうとて、蓄音器をかけるとか、また出來ないながらも讚美歌の一つも歌ひ、神樣のお話をしてやるとかするのである。これは平穩の時でありますが、一たん波が荒れると窓は閉める、ハッチ（甲板への昇降口）もしめるので、今迄海上の新鮮の空氣を吸つて居つたものが、僅かに狹い室の中に閉ぢ籠められて、空氣は惡し、搖れは劇しいしするので、船暈し出す、今迄船に強かつた者も、戰線に苦鬪して、身體が疲れて居るので、百人が百人殆ど船暈にかゝるのである。かうなると看護婦自身も隨分弱つて來るにも拘らず、平素より數倍の忙しさを增すので、自分も步めない樣になつて居つても、匍匐ふてでも看護して居る。さすがの勇士達も、この看護婦に向つて、どうしたらこの苦しみを逃れる事が出來るかと、苦しみ餘つて尋ねるのです。この時賴る神樣を知つて居り、またその神樣に就て敎へる事が出來たら、どんなに幸福であるかと深く感じました、彼れ等は、戰の半途で、こんなお役に立たない身體になつて、國家に御厄介かけては、死んでも行く所へも行かれぬと云つて歎くのであります。然しいつも私共は「國家の爲めに働らいて下すつた皆樣を、どうして神樣がお見捨てになる事がありませう、安心して萬事を神樣にお任せなさい」といつて、痛む所でも撫てゝ勞つてやると、淚をこぼして喜ぶのです。こんな時には、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

看護する身には慾も德もない。働き疲れた我息子達を見る樣に只どうかして少しでも慰安を與へ度いといふ外ないのであります。兵士達もお母さん〳〵と云つて賴り、その時うけた親切程有難く、嬉しいものは生涯ないとよく後から語られます。中には病院船に移すと、もうよいと安心して、返つて弱るものがありますから、そんな時には「あなたなんですかそれ位の傷で弱ちやあいけません、早くよくなつて戰はなければ」と叱る樣にして元氣をつけるのですそれでも航海中波に堪へないで、死ぬる者もありますが、その人の枕邊に寄つて、讃美歌の一つも歌ひ祈禱でもしてやると、安らかに眠りに就く事が出來るのであります。かうなると病院船には、看護婦計りでなく、どうか宗敎家にも乘り込んでいたゞきたい、そうしたらどんなに、皆に慰安を與へる事が出來やう、且つ看護婦も單に肉體の看護に止らず、どうしても精神に慰安を與へる事が出來なければ、その職務の大半を疎かにするものであると、つく〳〵感じた次第であります。

▲今日東京市中丈けでも四千人の看護婦が居りますが、眞實我が職務の神聖である事を感じて居る者が幾人ありませうか。私は先年米國に參りました節、多くの病院、看護婦の學校等を視察致しまして、我が國看護婦の精神修養の機關の缺けて居るのを感じ一日も早く我が看護婦社會にも單に技術を學習する計りでなく精神修養の機關を與へたいものであると考へて居りました。今回東京靑年會で、看護婦諸姉の爲めに會合を開き、尙ほ聖書硏究會をも催すといふ事は、何といふ幸の事かと存じ、自分も及ばずながら力を盡したいと存じて居るので御座います。

○　　　　森田松榮子

をののきてなきてひれふす罪の子の
　讖悔のこゑを主よききたまへ
人の子の小さき智慧もてたくみもて
　ああ幾とせか神にそむきし
われとわがくろきこころの浮雲に
　み光かくしさまよひし身か
み光はとはに照れるをつみの子の
　めしひをしらで闇となきしか

研究

話し方の研究（其の二）

久留島武彦

△聲と咽喉と呼吸と

次には話しに扱ふ道具調らべをしたいと思ふ。その道具は手足（態度）眼、材料、聲等に渡る。元來日本人は聲に關聯して、よく咽喉といふ事をいふ。あの人はいゝ咽喉だ、たしかな咽喉だと云ひ、從つて咽喉は大事にして、毎朝鹽湯で含嗽するとか、大阪で出來る大音聲といふ藥を飲むとか云ふ、然るに不思議な事がある。一度日本を離れて旅する者は、船の食堂の演手は勿論、歐米至る所に聲を扱ふ商賣をして居るのは皆伊太利人である事を知らるゝであらう。その伊太利に斯樣な諺がある。「咽喉を知らぬ（有たぬ）伊太利人」と。世界中に聲を扱ふ國民が咽喉を知らぬ伊太利人とは何か。何故に伊太利人が咽喉を左樣に重大に考へぬか。然らば聲には何が大切かといふに、彼れ等は咽喉の代りに呼吸を考へるのである。これは實に眞理のある事で聲は咽喉で扱はれぬ場合がある。家に赤兒の生れるといふ時、そら火事よといふ時、よく人は大聲を出すものである。自分では決して大聲を出さうと思ふのではないが、自分が聲を出さうと思つても、呼吸がはづんで肺の中から八も十も出て來るので、不知不識に大聲が出づるのである。之れを以て見ても、聲を扱ふものゝ凡てが咽喉でない事が分る。それ故聲の爲めには、強き肺臟と、之れを調節する習練を考へる事が大切である。自分がいろいろの聲の程度でいふ聲の高さ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

と出す呼吸とがつり合ふやうにする、こゝ迄の用意が大切である。次に話す聲に就ての注意を述べやう。

△聲の扱ひ方

第一は低い聲で話す經驗が大切である。之れは重大な實驗である。下手な人程、高い聲を出すのが普通である。我々も何か話さうと思ふと、遂或程度より高い聲になり易い。それ故成る可く低い聲で合點の行く樣に試み、話して居る中高くなつても、時々低くする經驗をしなくてはならぬ。高くなつた時、聽き手の注意が惹かれて居ると見たならば、聲を低くして見る、それで一分でも二分でも注意を惹けば更らに深く捉らへた事である。これは次第に熟練を要する。江原先生が昔傳道をして居られた頃は隨分拙なものであつたが、今日は子供の會合であれ、婦人の會合であれ、政談演説であれ、行くとして可ならざるなしといふ有樣になられたのは、實に千練百磨の結果と見るべきである。

次は話に間を有つ經驗が大切である。講談師の話を聞いて居ると、間髪を入れざる事を、間を有つて立派に聞かせる。下手な者は早い事は早く話さぬと捗取らぬと思ふが、段取りさへよく行けば、追かけ追かけ後から行く想像を妨げぬ範圍に、出來る丈け順序を追ふて話す事が出來る。

第三は調子に乘せる事で、云ひ換へれば音樂的旋律的であれといふのである。同じ三時が鳴つたといふにも、チーチ、チーン、チーイヌ、ア、三時が鳴つたと、一寸した音樂的の餘裕を取れば子供の想像を助ける事になる。然し物の聲を模倣るといつても餘り現實になり過ぎると、話す者の品位を傷ける。

第四は聲を自由に持ち回り、場内の自由の處に落す稽古をする事である。オーイと云ふ聲一つで、左右上下の位置、場所の關係を知らせる事も出來るがそれ計りではなく子供の統括上には、殊に必要である。あの柱の影につゝき合ひして居る子供が居ると思へば、オーイとその子供の所に聲を持つて行つて落すと、びつくりして行儀を直す。かやうな事は實驗を組み込んで行く必要がある。

△言葉の扱ひ方

今一つ進んで言葉の扱ひ方を申して見やう。一體言葉は直截の事、明確、簡單な事、この三つの特質

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

を持たねばならぬ、そして努めて具體的な言葉を撰ぶ事が大切である。もし具體的でなければ、耳から直ぐ聞く事が出來ず、理解に手間取り、記憶もしにくゝなる。「向ふからお嬢さんがさも悲しさうな風をして來るといかにも可哀さうだと云つて」と云ふよりも「向ふからホロホロ涙をこぼして來ると、嬢や此方にお出てと云つて手を執つた」と申す方が、聞く者の心によくしみる。子供には大人よりも婦人には男子よりも具體的に話す必要がある。通俗講演で評判のいゝ新渡戸博士、志賀博士などは、いつも話が具體的である。平民の福音を傳ふるには天下一品と云はるゝ山室軍平君の如きは、徹頭徹尾具體的できのふあつた事、今電車の中であつた事がいつも材料になつて居る。この間同君の話の雑誌に出て居たのに就て調らべて見ると、二頁半の原稿中、事實を引いてあるのが十一で、抽象的の言葉の一番長いのが四行半であつた。一般の人々にも具體的なる事は大切であるが、殊に子供には具體を失へばだめである。子供には形容は不必要で、形容するなら具體的にしなければいけない。

　次に固有名詞は考へなくともよいが、普通名詞や動詞、形容詞を考へなくてはならぬ。富士山、天龍川等いふのはよいが、蛙とか、猿、きもの等といふ普通名詞は地方至る所で變つて居る。蛙の事を、ガアエルだの、オンビキだのいふ地方がある、私が或地方に行つて、蛙の話をしやうと思つて、話す前に其の土地では何といふと聞いて、さて壇に起つてその通りガアワズ〳〵と話すと、後でガアワズとは何の事かと聞かれた、變だなと思ふと、此地方でガアエルといふと先きに敎へられたのを覺え違へてガアワズと云つて話したから、解らぬ筈であつた。餅搗く音でもポテン〳〵と云ふ處もペッチャラコ〳〵と云ふ處もある、これは別の事であるが、地方で話しする人はオチャビーとオベヽと云ふ言葉は決して遣つてはならぬ。これは或地方では云ふを憚るものゝ事に用ひられて居る。又動詞でもうごく事をいのくといふ處がある樣に、隨分地方によつて異つて居る。

　次に敍情的の事を云ふ時の模聲は、どの程度迄出したらよいかと云ふ事を考へなければならない。話す人が泣き眞似して見せる時、泣けば泣く程却つてをかしさを覺ゆる事がある、然らばどの程度迄模聲したらばよきかといふに、丁度狂言の太郎冠者、次

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

郎冠者の科白のやうに、一尺、話すならば、初の一寸は向き合ひ、八寸を皆に向つて話し、また終りの一寸を向き合つて云ふといふ風に、初め一寸眞似て次に通常の言葉で話し、また一寸模聲を出すといふ様に、眞似と説明とチャンポンにするがよい。物眞似をする事は實感を得るたよりにするのであるが、何處迄もするならば、それは芝居になつて、一人にして百藝に渡らなければならぬ様になる。話すには自分を握らなければならぬ、話す甲となり、乙となり終るのは下手である。この模聲が足りなければ同情が足らず、多ければ、品位に障る。

言葉は亦務めて不必要なものを用ひぬ工夫しなくてはならぬ。よく人はソーシテとかソレカラとかアノ、ソノ、ソースルト、コノと接續詞を使ふので想像を破る事になる。殊に日本人は百人が百人エーといふ事をよく云ふが、之れは斷じて避けなければならぬ。そして出來る丈け少い詞で、出來る丈け多くの効果を得る工夫をしなくてはならぬ。

子供に話すといふ時、人は敬語を多く用ゆる。兎さん、鹿さんといつた風に云ふが、之れは不必要である、幼稚園邊りの子供には多少必要があるかも知れないが多く入れぬ方がよい。また前に云つた言葉を後に生かす工夫が必要である、向ふから三郎が二本鼻を垂らして來たかと思ふと「鼻をふき〳〵何んだこの野郎と云つた」といふよりも、「向ふから三郎がやつて來た、一寸横撫でして、何んだこの野郎と云つた」といへば、三郎の人格も、少い言葉の中に自ら分る。フイリツプス、ブルツクスの云つた言葉に話は出來る丈け明瞭なる事、論理的なる事、快活、眞面目なる事、佳調なる事と、眞にその通りである會衆が多ければ多い丈け、混雜すればする丈け、言葉の云ひ切りをはつきりする事が大切である。

△話す態度

前號に於て話す態度よりも精神が大切であると申したが、然し我々は自由な手足ある以上、之れを粗末にしてはならぬ、日本の演壇に立つ人は百人が百人手を後ろに廻す。之れは休めの姿勢で禮儀に於ても失禮である。西洋では二時間以上演説した時、初めて椅子による事を許さるゝ。もし手が疲れたならば一方を後ろに回して代り代りに一方宛休めるとしても一方は必ず前に出して居る事が禮である。手は

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

どんなに使つても品位に拘らぬが、足は品位貫目を代表するもの故、殆んど或程度迄動かす必要はない腰から下は丁度角力取りが土俵で占めた地歩と同樣ウンと氣張つて動かぬがよろしい。手も出來る丈け少し動かして多くの意味を語る工夫をしなければならない、柳屋小さんが嘗て旦那と召使ひとの違ひをあらはすには、僅かに一寸肱を張るか附けるかまた膝の手を一寸後に引くか前に出すかにある。即ち肱を一寸張り、膝の手を一寸後に引くと旦那の姿勢になり、その一寸の肱を付け、膝の手を一寸前に出すと召使ひの態度になる。誠にづるいものであると私に話された事がある。然し初めからづるく構へても容易でないから、先づ思ひ切り使つて見てから、骨を悟る方がよい。全體の姿勢は成る可くそる方がよい。前に曲むのは、半分聽衆に呑まれた調子である。

△眼即ち精神

扨話する者に取りて眼程大切なものはない。手足を動かさなくとも、眼一つて旦那にも召使ひにもなれゝば、有るものを無い樣にも、無いものを有樣にもする事が出來る恐るべきものである。この話には意味があるぞと云ふ事は、口てどんなに笑はせても手足でどんなにふざけても、眼できつと知らせる事が出來る。檢校の琴彈きは、聲が何やら徹底しないといふのは、その大切な眼が塞がつて居るから、意味をあらはすのに、薄紙をしひた樣な氣があるのである。扨眼を使ふ土臺は何かといふにそれは精神である。態度、音聲はいかに立派に出來ても、眞面目を缺けば決して話しの意味の徹底するものではない講談師の話が徹底を缺く事の多いのは、眼によらずして口によつて話すからである。エール大學の雄辯學の教授クレーム氏は話につき自分の經驗を問はれた時に第一同情、第二同情、第三同情と、即ち聞く者に同情し、己れに同情し、材料、場所、時に同情し同化し、渾然一にして己れとなり、同時に己れを忘れて他の己れになる事が大切である。私共が地方に招かれて話しに行くと、二里も三里も山越え里越えて、態々聞きに來たこの子供に、どうか同化し得る樣に、そして何物かを與へる事が出來る樣にと十分計り子供を見て、後控室に歸つて默禱するのが常である。かうして話にかゝると大抵效果を收める事が出來る、之れ即ち子供と充分同化する事が出來、隨つてその精神を徹底せしむる事が出來るのである

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

耶蘇の說きし救（四）

柏井園

（七）贖罪

今まで我等が救に就いて、即ち耶蘇の說き示された救につきて擧げ來つた所はいづれも個々の人と神との關係である。然るに茲に考へねばならぬ人生の大なる事實がある。それは即ち人と人との結合連絡せる所から生じた事實であつて、甲の人の爲た事によつて、乙の人が救はれると云ふ事である。この事實にはさま〴〵の側面がある。甲の人の爲た事によつて乙の人が迷惑を受けると云ふ事は其の一てある苦しみと云ふ事は人と人とを結び合はす繫がりである。苦痛と云ふ此の深き人生の脈絡は、やがて又人の業によつて人が救はるる最とも大切なる路ともなるのである。ウオーカーの『基督の敎訓』の中に斯く書いてある、『十字架は人之を負はねばならぬ或る物である。十字架は甚だ深く人の心にはいつて居る或る形に於て何人の生涯にもこれがあるのである。之を否むものは基督の弟子となることか出來ぬ。十字架は低い自己に對して死ぬることを示す一の象徵である。人は之によつて神の子たる生活に入ることが出來るも十字架は日々之を運ばねばならぬ。義務の道にはいつも重い十字架の橫はるを見出たすてあらう人は之を避くることなく進んで之を取らねばならぬ。』

耶蘇の人を救はるる道は盡く人生の深い處に橫はる脈絡に手を着けたまふ。故に彼は人を救ふ爲に苦まねばならぬ。之が爲に生命を捧げねばならぬと云ふ考は傳道の始からあつたと見へる。馬可傳二〇二十には『のち新郎を取らるる日來らん其日には斷食すべきなり』と云はれた。新郎はまがひもなく耶蘇自身を指すのである。カイザリア、ピリピの旅行の後はこの預期が一層明白になつて來た。少くとも明白に弟子に告げらるるやうになつた。又弟子等も基督の後に隨ふ爲には苦まねばならぬと云ふことを敎へ初められた。『もし我に從はんとおもふ者は己を棄て其の十字架を負ひて我に從へ』と云ふことを敎へらるるやうになつた。さて其の頃耶蘇は十字架の刑に

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

就くと云ふことを豫知して居られたか否やと云ふことは十分に分らぬ。馬太傳二十〇十九には『また凌辱鞭ち十字架に針けん爲に異邦人に解すべし』と云はれて居るが、しかしこれ十字架の死が事實となつた後、原は單に死ぬると云はれた言が、十字架の上で死ぬると豫言せられた事になるのは自然の傾向であるから餘り言に拘はらぬ方がよいと思はれる。それから路加傳十二〇五十に『われ受くべきのバプテスマあり其の成し遂げらるるまでは我が痛いかばかりぞや』とある。早く濟まさねば安心の出來ない苦しい試驗があると云ふことは、耶蘇の意識から離れなかつた事實であつた。

何の爲に斯く苦まねばならぬか。耶蘇はこの苦みは人の益になる事である、人に代る意味があると考へて居たまふた。『人の子の來るも人を役ふ爲にあらず反つて人に役はれ且つ多くの人に代り其の命を與へて贖となさん爲なり』(馬可十〇四十五)。耶蘇は己の死は贖であると明言せられた。贖ひとは何を云ふか。身受と云ふことも亦贖である。奴隷に身を賣つたものを外の人が身の代金を出してやつて之を奴隷たる境遇から救ひ出すこれ一の贖である。舊約聖書の禮末記のうちに次の如き法がある。

海の中なる客旅あるひは寄寓者にして富を致しその傍に住める汝の兄弟零落て海の中なる其の客旅或は寄寓者あるひは客旅の家の分支などに身を賣ることあらば、其の身を賣りたる後に贖はることを得、その兄弟の一人之を贖ふべし。その伯父又は伯母の子之を贖ふべく其の家の骨肉の親たるもの之を贖ふべし。又若し能くせば自ら贖ふべし云々。

又舊約聖書のうちには贖と云ふことを身受金のことでなく罪を償ふと云ふ意味で用ひられた所もある民數紀略三十五〇三十三に

地の上に流せる血は之を流せる者の血を以てするに非れば贖ふことを得ざるなり

とある如きこれである。日本語の「あかなふ」と云ふ語にしても「購ふ」と云ふと「贖ふ」と云ふとはちがふやうなもので、聖書のなかにある「あかなふ」と云ふ語にもいろ／＼の用ひ方はあるが、大體に於て罪人の自ら爲す能はざる所のものを耶蘇が其の生により又死によつて仕て下さると云ふ一點は動かない事と思ふ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

又耶蘇の贖罪觀を研究する時分に必ず引かるゝ言は耶蘇が十字架にかゝる前後弟子と晩餐を食せられた時に語られた言、其の中でも『此れ新約の我が血にしてすべての人の爲に流す所のものなり』(馬可十四〇二十四)と云ふ一言である。馬太、路加、及びパウロのコリント前書の傳ふる所語に少しづゝの異同はあるが、大體は明である。即ち耶蘇の流す血は人の爲に流さるゝものであつて神と人との新しい約束であると云ふことである。

舊約聖書から新約聖書にかけて、神の約束と云ふことが一の重要なる思想であることは聖書の名を舊約と稱へ又新約と稱へることによつて分る。宗教は一面から云へば神と人との約束事である。人の方からは神に事へ神を愛し忠義を盡すと云ふ約束を立てる神の方から必ず我等を守り我等を愛し何處〱までも我等を棄てぬと云ふこれ神の約束である。出埃及記第二十四章を讀むなれば、モーセがヱホバの律法を民に授けた時、民は『ヱホバの宣ふ所は皆我等之を爲して遵ふべし』と答へた。そこでモーセは牛の血を民にそゝぎて『これ即ちヱホバが此の諸の言につきて汝と結びたまへる契約の血なり』と云つた。

これが即ち舊約である。神と人との間の約束はこれだけでは足りないことになる。人が約束した如く神の宣ふた事を盡く行ひ遵ふことが出來れば申し分はないのであるが、弱い人間にはそれが出來ない時にどうするか。神の方からは、單に神に遵ふものは神之を守ると云ふばかりでなく、其の罪を悔いたれば之を赦すと云ふ約束が必要になつて來る。舊い約束は牛の血を以て固めとしたが、新しい約束は神の子の血を以て固めとする。

何故血が必要であるかと云ふとなか〱六かしひ問題にはいつて來る。一言にして云へばこの際犧牲が必要であると云ふことになる。如何なる意味で犧牲となるかと云ふとこゝは神學者の思想の岐るゝ所であつて耶蘇の教から一定の贖罪觀を引き出すことは望み難い事である。しかし極めて手近い所から考へた所で、耶蘇の救はたゞ説かれた救に止まるか彼は口を以て人を救はるゝに止まつたか、手を以て救はるゝに止まつたか。否彼の全身を以て、即ち其の心血を注いで救はれたに相違ない、人の心靈は彼が血を流して救ふだけが價値のあるものでないか。解釋は或る方面に止まるが、事實は多方面である。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

人生の何處を堀つても悲哀と苦痛の出て來ない處はない。宗敎家が如何に品性の理想を說き社會の改良を說いても、其の同情が人生の底にある悲哀と苦痛に徹しないうちは到底人を動すことが出來ぬ。然れども又他に一の根本的の事實がある、それは即ち罪である。人間の經驗に深く這入るほど罪と云ふ事實は現實になつて來る。たゞ夫れ苦むと云ふ事實のうちに罪を救ふ力が潜んで居ると云ふ事は、昔から人の朦朧に感じ得た事であるが、耶蘇の福音の如く之に明なる光を注いだものはない。人の靈魂の深い處にまで徹する秘密はこゝにあるのである。

（八）　永遠の生命

救はるゝことの歸着は、永遠の生命を得ることである。此の方面はヨハネ傳に記された耶蘇の敎に最も多く說かれてある。我が與ふる水は其の中にて泉となり湧き出てゝ永生に至るべし』（四〇十四）と云ひ『我が肉を食ひ我が血を飲むものは永生あり我れ末の日に甦らすべし』（六〇五四）との如きこれである。耶蘇に充ち滿ちたる神の生命に接し殊に其死より來る恩に接して永遠不死の生命を受くると云ふ福音はヨハネ傳に於て繰り返し〳〵說るゝ所である。

◉カルホルニヤ基督敎女子青年會夏期修養會

近頃在米の津田梅子氏令妹安孫子夫人より端書と共に興味ある新聞の記事を送られた。それは夫人が出席せられたといふカルホルニヤ基督敎女子青年會の夏期修養會の記事であつた。この夏期修養會が、特に多くの新聞紙の興味を惹くに至つたのは、一貴婦人の快擧がこの會に加へられたからであつた。それはこうであつた。昨年基督敎女子青年會の夏期修養會が、カリホルニヤの北部ハーンエンドといふ所に開かるゝに當り、恰もその地の別莊に避暑して居つたミセス、ホイスといふ貴婦人は、その修養會を見て、若し我が別莊の如き廣々したる眺望よき處を修養會々場として用ひたならば、多くの女子學生達はどんなに愉快に心身を養ふ事が出來やうかと云ふ事を考へられた。そこで今年は女子青年會の修養會が開かるゝといふ三ケ月前から、夫人は私かにわが別莊の空地に手入れし、凡そ三百人を容るゝに足るやうにと實に七十五の寢室天幕と、洗面場、食堂、調理場、病院、聖書の組、集會場、書店等に要する天幕を作られた。（三十頁につゞく）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

イエシユダス

スモール女史作
小此木松子譯

（下）

過ぎし幾年の昔、一夜バラナディの山上に敎を求めたナラヤン、ラオの消息は其後杳として聞く由もありませんでした。そして忘れるとも無く年は過ぎて、白人の傳導師團は專心、モルワラ附近の傳導に從事して居りました或日、思ひがけないナラヤンからの書狀が來ました。其れには、過ぎた夜の敎を謝し、今は永らく肺を病むで死期も迫つたと思はれる身の、申し殘したき事もあり、旁々と、急ぎの來訪を促すのでした。そこで一人の宣敎師は、ブラマ族の若い牧師で醫術にも巧みなヴエンカトラオといふを連れて早速ナラヤンの居村へと向ひました。

行き着いた先きといふのは、淋れ果てた、ヒンドウーの一寒村、岩角聳えた小山の上に孤立した樣なのが、昔ながらの婆羅門の伽藍で、今は老ひさらばへた其老僧は己に神の子イエスの道を知つて、今も尙ほ、ナラヤンの病軀を護るのでした。

是等二人の中、若いナラヤン、ラオの氣品ある自然の容貌には、多年の難行、冥想、憧憬のあとが、明々と刻まれて居りましたが、聖い光、崇い喜びの色は、尙も美くしく其眉目の中に輝くのでした。此人の物を求めて止む事の無い渴仰の趣とは又異つて老僧の方は、唯、是、安心立命、言ひ難ひ平和の色に溢れて、是が、昔の苦行の僧かと驚かれる計りでした。

夕暮の靜けさに、同じ心の四人が、小山の麓に禱りを共にし、讚美を歌ふ時には、色褪せたナラヤンの頰に淚が傳はるのでしたが、來合せた、幼な兒などが、懷しがつて、裾を曳き、袂を捕へ、抱かれては、其頰をなで、鼻を擦りなど、親しみ馴れますのを、さも嬉しげに、可笑しげに笑ひ興ずるナラヤンは、決して、世を脱れた聖者の黨ではありませむでした。

此樣にして共に過した朝夕に敎師等の知つたナラヤンが信仰の徑路は次の樣でした。始めて活きたる神の在すことを聞いたバラナディの一夜、故郷の人

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

に其福音を傳へたさの一念で、其儘家へと戻つたのですが、其後は或は庭に社を建てゝ神を祭り、或は想像の生むだ神體をさへ安置して活ける神を目の當り見ると悦びなどもしましたが、眞の神は遂に彼の心に宿つて是等の誤られるを知らせ玉ひました。後には、專ら救主イエシユのなされし樣に、貧者病者を助けるを務めとして、家を捨て、友を置いては、其務を遠い村々にまで果し、行く道々晝の樹陰に憩ふては、昔て老牧師より贈られたヨハネ傳を讀み耽りました。讀み行く程に、言々句々皆我と我身の經歴を書かれた樣に思はれて、唯其前にひれ伏すより外は無く、遂に昔のナラヤンは死して新なるナラヤンはイエシユに活くる事となりましたが、此時以來我身をイエシエダス、即ち、イエシユの僕と呼むで村より村へと渡つた果は日にやかれ風に疲れた肉身の慰安望ましく、久しぶりの故郷、懷かしい老翁、其等を慕ふて戻つたのてした。

斯くも激しい仕事に大患を招いたイシユダスは、もはや回復の見込も無いものとなりました。しかし醫術に長けたヴエンカトラオが隱す事なく此事を打明けましても何の悲しみの樣も無く、老僧共々愈々彼の福音書の深意を味ひましたが、まことに此二人の斯く迄深い信仰には一點人力を加へた所は無く、全く其心の底から湧き出た清水の樣な信念であつたのですから、古來の基督教徒が行ひ來つた儀式、其他の事に至つては何の智識もありませんてした。それて牧師達は例へば日曜が來た時には、其禮拜の由來を話して共に神前に膝き、祈りを捧げて感謝を致しますと、イシユダスの喜びは實に見るも美くしい程て、地上一帶共に共に此日をトして神を讚するのを謝しました。また、洗禮のこと、聖餐の事を聞いては、主が、臨終の際に望まれて、尙此樣に後々の事をまて思ひ置かれた其愛と情けに感激するのてした。

終に準備も整つて最初の基督教禮拜を公開した其日には、定めの場所の四つ辻は人を以て埋められました。今日の説教者ヴエンカトラオと教師とは石階の上に立ち、イエシユダスと老僧とは、樹の根方に其三方を取り巻いた聽衆の中には、同情者、反對者、と相半ばして、夫れ〳〵すさましい勢ひてす。辯もよし、土人としての同情もあり、且つは、已に醫術を以て土地に相當の人望をもかち得た、ヴエンカトラオは始めの程こそ度をはかり、氣を窺ふ模樣てし

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

たが、一度、機に觸れては、抑え難い熱誠と雄辯とを以て、無限なる神の惠みと御業とを述べました。今迄、息をのみ、瞳を凝らして、演者を凝視て居たイエシユダスは、ヴエンカトラオの熱せる聲や、其身振りに心覺えのある事を感じ、且つは話も同じ救世主の事、さてはかの昔、幼い折の酒宴の席で、母の膝に抱かれながら聞いた話の演者も此人であつたかと心附いては嬉さに堪へず、今の信仰の種を與へた此恩人に幾年間かの望みの末、廻りあつたのも全く神の思召しの在る所と一向感謝しましたが、一方ヴエンカトラオは、嘗て一時の慰みに、主の御生涯を公衆に語つた昔を恥づるより、他はありませむでした。

やがて種々と工夫の末、廣大なイシエダスの邸宅に手入を加へて會堂とし、日々に公會を催しては道を說き、或は少數の男子を集めては夫々必要な敎授をも始めました。近處近隣の村々からは、日每に來訪するもの多く、多數は是等改革者を批難する者のみでしたが、イエシユダスは、何れにも唯一樣に歡迎の辭を與へて其來會を喜ぶのでした。一人、心さといヴエンカトロは是等の人々を怪み嫌つて、日每に近づく友の最後の來る時までは、日夜其傍を去らず、警護しやうと決心しました。

丁度或土曜日の晩でした。明日は愈々、正式に建堂の式も擧げ、老僧とイエシユダスとは、洗禮を授けられて其第一回の會員となり後には聖餐式も擧げる手筈に運んだので、此夜は四人、堂に會して靜に祈り、やがて廊に出て、思ひの儘に語り更かしました。實に此夜の數時間は、人の一生に多くは得がたい貴い時であつたのでせう。夜半になつて夫れ〲寢處へと別れましたが、ヴエニカトラオだけは、晩も亦、老僧共々イエシエダスを護りました。

明方とも覺しい頃に、頻りに戶を打つて起された敎師は、イエシユダスの容態悪しと聞いて遑しく部屋を出ましたが、禮拜堂の中に、微な燈火の光るのを見て直に其方へと急ぎました。と見る聖餐の壇の上にはあはれな蠟燭の一本、其下には、唯三人の人影が見えるばかりでした。床の上に安臥したのは、疑ひも無いイエシユダスです。老僧は膝づいて其手を取り、ヴエンカトラオは手早く繃帶など整へる模樣です。もはや命も絶え〲な其人に洗禮を與へ、併せて老僧にも此を授けるのを見たイエシユダスは

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

斯くして地上の兄弟と結び、安らかにあの世の眠りに就きました。

眠れる人の美はしい顏をと近寄つた敎師は、死者の上衣にも亦床の上にも少からず血痕のあるのに始めて驚きましたが、其場では不審を晴らす由もなく、靜に遺骸を横へた後、ヴエンカトラオから聞いた所は斯うでした。

心ゆく話の後に、眠りに就いたイシエユダスは、間も無く起きて、部屋を出ました。同じく覺めた警護の二人は跡追ひかけながら禮拜堂に入り彼が祭壇に額いて祈る間を傍へに立つて待ちましたが暫くすると、微かな叫び、思はず我にかへつて共に驅け寄つた時は已におそく、暗より入りて病者を刺した兇漢は、暗にまぎれて去つた後でした。

この様にしてイエシユダスは、敎に殉し、プニアパーの小さい堂は血を以て捧げられました。

――（二十六頁よりつゞく）――

寢室用天幕の中には、心地よきベッドもあり、湯と水との水道も引き、衣裝用の簞笥も据え、集會場には大なるオーガンを備へ、各室共に電燈を設置するなど、凡て親切なる用意をされました。

愈々會期となりました。凡そ三百人の女子學生は此會場さして集りました。夫人は二十臺の自動車を停車場に出して迎へ、此別莊に伴ふて來り、心地よきかの各室を與へました。更らに此人々を接待する爲に特に二十人の女中を雇入れ、病院内には醫師と看護婦をも招いてありました。かくして一週間夫人は此大勢のお客を、凡て自費を以て賄はれました。

然しその上に一つ最も面白き事は、會員の各自から、宿泊料、食費に相當する丈けの金をカリホルニヤ女子靑年會の夏期修養會場を建んが爲めに寄附致させた事です。永久會の所有になる會場は只一人の手によつて出來たのでなく、多くの若き方々の赤心の籠つた寄附になつたと云ふ事が、大層意味を持つといふ事を、夫人は氣付かれたからでありませう。勿論修養會に設備した天幕外一切は靑年會に寄附されたのです。夢のやうな心地よき話であります

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

會の消息

◎日本基督教女子青年會

▲**夏期修養會近く**　前號詳細報導したる廻り、本會夏期修養會は愈々本月二十三日より同三十一日に亘り開催いたさるゝ事故、支部代表者は勿論、多くの姉妹方の奮つて御出席あらんやう待ち上げます。猶なほ各支部よりは昨年の通り、隨意品物を持ち寄つて模擬店を開く事と致しますから、左樣御承知の上、日用品、食品、書物、何んでも好みの店をお出し下さい

なほ講師方は何れも皆知名の方々故、皆樣既に御承知の事と存じますが、一言前以て御紹介申して見ませう。

▲今井壽道氏　は聖公會神學院長で雜誌「聖書界」の主幹をもせられて居ります。(同雜誌は目下休刊中) 聖書研究には殊に造詣深く、舊約聖書神學、聖書の恩賜、實踐の教義等の著書があります

▲今井革氏　はバプテスト教會の牧師をせられて居ります。氏は佛教の教役から轉じて基督教界に入られし方でありますから、その實驗上の宗教は必ず多くの方々の疑問に答ふるに足るものがあります。

▲長尾半平氏　は二十四年工科大學卒業後引續き官界に勤務せら

れ、現に鐵道院技師として盛名ある方であります、大學在學中既に同校の青年會に盡力せられ、爾來今日に至る迄愈々出でゝ愈々熱心を加へられたる、所謂市に於て信仰を磨かれたる方であります。

▲植村正久氏　は富士見町教會の牧師として、雜誌「福音新報」の主筆として、その深遠なる學識と純粹なる信仰とは我が基督教界の重鎭として人の推す所であります。

▲山室軍平氏　は救世軍大佐補として、我が國平民傳道界の恩人であります。實行より溢るゝ言說は口に筆によく人を動かすに足るものがあります。多くの著書の中平民の福音、實行的基督教等は宗教の何物かを知らんと欲する者の讀むべき書物であります。

▲山田千代子女史　は神奈川搜眞女學校の教頭をせられて居ります。昨年の修養會に出席の方々は、その講義のいかに興味深かりしかを忘られぬでありませう。今回は殊に求道者の爲めに、基督教教義の初步を平易に說かるゝ筈であります。

▲安部清藏氏　は岡山教會の牧師で、近年研學の爲め在京せられて居ります。男子青年會の機關雜誌「開拓者」を初めその他の誌上に於て、屢々趣味ある論說を見ます、その著書の重なるものには、馬太傳講義、創紀世講義、羅馬書講義等があります。

▲宮川經輝氏　は大阪教會の牧師として、雜誌「大阪講壇」の主筆として、我が基督教界の耆宿であります。氏の說教には非常なる力があり、氏の祈禱の前には何人も膝まづかざるを得ぬと申します。蓋し氏の背後の磨かれたる靈性と豐富なる宗教的經驗とが相須つによるのであります。著書亦多き中に近く靈的實驗

が發刊されました。

▲廣岡淺子女史　は往年一家の浮沈を其の双肩に擔ひ、久しく實業界に苦鬪せられ、爲めに婦人として異常の經驗を持つて居られます。早く女子高等教育の必要を悟り、女子大學創立に盡力せられしは人の知る所であります。六十歳にして初めて心靈の修養に志し、昨冬終に受洗せらるゝに至りました。女史の談は常に人は必然宗教迄行かなくては止まぬといふ事を悟らせます。

▲元田作之進氏　は立教大學の校長であり、又女子英學塾等に於て、倫理を受持たれて居ります。而して倫理と宗教、此密接にして然も調和し難き問題につき、氏は深遠なる學識を以てよく指導を與へらるゝと聞きます。その著書の重なるものには未信者に與ふる書、求道者に與ふる書、信者に與ふる書等があります。

なほ新橋及び横濱より横須賀迄の汽車賃をお知らせしますれば

新橋驛より横須賀驛まで三等　片道乘車賃一人　四拾九錢
同二十五人以上の團體は一人　四十錢

横濱驛より横須賀驛まで　三等片道乘車賃一人　參拾八錢
同二十五人以上の團體は一人　參拾壹錢

他の地方より來る學生は校長の證明あれば二割引です

▲在京支那女學生會　六月二十三日午後二時半より本部に於て在京支那女學生會の發會式を擧ぐ。會せる女學生十二名、ミス、マクドナルドの司會のもとに、陳女史の聖書朗讀(哥林多前書十三章)祈禱を以て始め、先づミス、マグドナルド日本語を以て、我れ我れは自分の國の事計り考へて居つてはならぬといふ事より、本會を開くに至りし趣意を語り、次で支那に十三年も傳道してありしといふミス、ベクイングセールの、支那語の談話あり、次でミセス、エルインの日本語の談話あり、ミス、ワトネの獨唱ありて後、茶菓を呈し、懇話して分る。その他ミス、ハーツホン、ミセス、チャンドラ等數名の來賓もありし。

▲寄附　本會夏期修養會の建築費用として仙臺宮城女學校より金參拾圓也寄附せらる。なほ青山女學院より貳圓拾八錢也、女子英學塾より會費の十分の一、即ち二圓八錢也本會の事業の助けとして寄附せらる。なほ日本總幹事招聘の費用中に、前回報告の分に引續き左の如く寄附申込まる

金拾圓也(毎年)　女子英學塾
同　(毎年追加の積り)　ウヰルミナ女學校
金貳圓也(毎年追加の積り)　札幌女子青年會
〆金貳拾貳圓也

總計金六百八拾圓也

本會は右諸種の寄附に對し、好意を深謝し、この金

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

園の神の名によりて有効に用ひられんことを祈る。

◉東京基督教女子靑年會

▲**工女の爲めの講話會**　六月三日兼ねて計畫中なりし工場講話會の第一歩として本所富士紡績會社工場に於て、工女の爲めの講演會を催す。東京女子靑年會よりミス、マシユウ、ミス、ワトネ、加藤たか子氏の諸幹事日本基督教女子靑年會より小橋三四子氏等出席山室大佐救世軍士官數名を率ひて、この擧を助けらる。山室大佐は會を司會し、初めてこの種の會合を見る千餘の工女に向つて、祈ります、祈る時にはどうしたらよいか、只默つて居ればよいとて、「折角遙々國を離れて稼ぎに來て居るのでありますからどうぞ身體も丈夫に、心も立派になつて働く事が出來ますやうに」と祈られ、扨時計の針の狂ひを、中のぜんまいが悪くなつて居るとも氣付かず、針丈け持つて時計を直しに行つた田舍者の話や脊むしの村長さんが洋服を着たら、村の者共が洋服を着ると背をわざ〱曲げて歩いた話や、巧みな比喩を以て、人は精神の修養をしなくてはならぬ事、一人の人の行ひは皆が眞似するものである事やを敎へられた。數名の者の獨唱及び合唱ありて散會。門を出づる時また入らしつて下さいと工女達送り出す。

▲**看護婦人會**　六月二十三日午後二時半より麴町區三番町なる東京基督教女子靑年會本部に於て、看護婦人會を催す。かねてこの種の會合を必要とせられし本會寄宿舍委員周防蝶子氏の司令の下に、ミス、ウエスト日本語を以て祈禱をせられ次で周防氏の挨拶あり、ミス、ワトネ"Jesus lovrr of my soul"の獨唱につゞきミス、ミリケンのダクター、キヤネデーに就ての話あり、河井道子氏、ミス、ウエスト之れに和して語られ、茶菓の饗應に移る。本會の隣家なる木澤病院長は後れて出席せられ、自分は聖書の一頁をも讀んだ事がないものであるが、どうしても看護婦には技術の學習と共に精神の修養の必要を痛切に感じ、今回新築の病院三階は看護婦一般の爲め修養の會合を催さんが目的にて造りたり、今後は宗教家の力を借りて、看護婦の精神修養を盛んにし、その職の神聖なるものなる事を知らしめたいと語らる。その他船尾三井病院事務長のキリストの救を知らしむべしといふ勸話あり。當日は赤十字社より萩原たけ子氏外數名、三井病院看護婦長綿谷氏、榊病院看護長、大森の某病院看護婦數名の諸氏合せて二十七八名の來

會者ありき。

◉女子英學塾

▲三月三十一日　地方より上京せる入學志望者に、英學塾内の有志者、上京に際し出迎えすべき旨、及び其の到着の停車場及び時間を問ひに端書を出す。

▲四月九日　今日は入學試驗日にて、約五十名の受驗者集まる。販賣部委員たる馬場、一條の兩姉は控所に出て、文房具販賣につくさる。

▲四月十一日　午後一時より入學式講堂に於て行はる。式後本會役員は各項に分れ、それぞれ責任をもちて教科書購買につき新入生の便宜をはかる。

▲四月十二日　午後二時より委員會を開く、出席者河井先生、役員五名祈禱河井先生。議事は女子英學塾基督教女子青年會規則改正の事なり。議事速かにまとまらざる故、河井先生の意見にて條約改正の任に當るものを會長が指名する事にし、其の指名されし人は河井先生と萬事取りきめ、總會にて發表する事に一同贊成す、其の委員を早坂、竹越、稻田の三姉となす。早坂姉の祈禱にて閉會す。

▲四月十六日　十二時半より講堂にて總會を開く。出席者二十七名、早坂氏舊規則と新規則を參照してよみあげ會員一同の意見を聞く。時間なきため一時閉會す。然して第二會を開く事、多數決にて可決す

▲四月十七日　十二時半より第二の會、二時より第三の會を開く。委員長は委員三名以上の場合に設くる事元良姉の動議にて出席者三分の二以上の贊成にて通過す。而して各種の委員長は正會員より選び、委員數缺乏の場合は准會員より選ぶ事に馬場姉の動議にて多數をもつて可決す。其の他顧問選擧の方法等につきて議し、閉會す。

▲四月十九日　午後三時より新入生の歡迎會幷びに總會を開く。而して新入生一同に改正新規則を刷りて配布す。終りて親睦會を開く。茶菓を呈し、種々の餘興ありて、五時頃散會す。津田先生、須藤先生、ミスハツホン、ミセス、チャンドラ、白河先生等の出席あり、生徒出席者八十五名餘。

▲四月二十六日　十二時半より委員會を開く、出席者八名、祈禱馬場姉、議事は書記稻田姉辭職のため其の後任の選擧及び規則改正につきての委員長の選擧、及び其の數。會計なりし竹越姉を書記になし、會計を横澤姉一人に一任する事に滿場一致す。委員長の種類を五つに分つ。集會委員長、誘導委員長、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

社交部委員長、販賣部委員長、聖書研究部委員長になす事に決して閉會す。

▲五月十三日　二時より委員會を開く、出席者ミスマクドナルド、河井先生及び他七名。委員長の選擧の事を議事となす。會長の意見にて此處にて選ぶ事に決す。誘導委員長稻田琴子、社交部委員長馬場靜江集會部委員長元良靜子、販賣部委員長一條琴子の諸姉に決す聖書研究部委員長は副會長の兼務となすに決す。又從來の委員會を役員及び委員長よりなる事務執行委員會となす事に定まり閉會す。

◉大阪プール女學校

全能の神の御旨をかしこみ、本會も彌々働らき居候へば御喜び下され度候

▲五月二十三日には河井道子先生の御來訪に預り、青年會に對し、特別に有益なる御話承り候。翌日河井先生及び本校の牧岡先生は德島に赴かれ、御講話なされ候

▲目下日曜學校は概して多數の方にて、子供も眞面目に聖書を聞き居候へば、將來の温良なる神の僕婢とならん事を望み居候

▲紡績慰問三名は寄宿生五年四年の有志者に助けられ、日曜毎に集會いたし居候が、著しき發達をなし、新しき讃美歌も一同練習して、よく覺ゆる樣に相成申候。集會者平均八十名位に候。殊に感謝すべきは此程より讃美歌會の後に聖書講究會の開かるゝ事になりし事に候。係の者の願ひにより會長この講義の任に當り居候が、同會に加入せしものは三十名にも上り申候へば、何卒この集の上に主の御惠みを御祈り下され度候。

▲月曜日祈禱會は大に惠まれ、集會者平均二十二三名にて、始に比らぶれば十三名位の增加に候。而してこの集により救はるゝもの續々出て、受洗の幸にあづかる者も少なからず、大に喜び居候。金曜日の方も愈々盛んにて、各方面の爲めに祈り居候。

▲慈善會は此頃ボーマン先生御歸國前につき、人形の着物など縫ふに忙しく、主女會の方には輸出用の繪カードなど一心に拵らへ居候。

▲聖書の友の會員は一ヶ月一回宛會を開き祈り居り候、概略右の次第にて、日々に惠みの露にうるほひつゝ、健かに育ち居候へば、何卒感謝なし下され度、又益々御恩寵の豊ならん事を御祈り下され度候

◉青山女學院

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

貴會益々御清榮の段賀し奉り候。當會は尙ほ誠に微々たるものに候へども、主の厚き御惠みにより、日に〳〵發展致し居候

▲本會々員數は百八名、内七十名は正會員、三十八名は准會員に御座候。役員は先學期末に改選いたし候へども、今學期は新入生多く有之候ため、長らくの間、名簿の整理とゝのはず、遂御報告を延期いたし候

▲これまでは本會總理の爲め敎師中より會長一名を選ぶが會則に御座候へども、今回會則を改め、會長を廢し、顧問二名を置き、事務は凡て生徒にて爲すことゝ相定め申候。當選の役員は左の如くに御座候

顧問ミス、ラッセル、柴田すゑ、部長鷲巢ひな、通信書記堀のぶ、記錄書記小木曾其枝、會計佐藤令

▲毎週日、木曜の兩日祈禱會を相催し申候。木曜日は特に通學生の爲めに設けられ、平均三十名の出席者有之候。またマクドナルド先生の御勸めに從ひ、毎金曜日十二時半より一時まで聖書硏究會を開き申候。會する者僅か十一二名に候へども、皆々多大の興味を以て硏究いたし居候。尙ほ硏究者の增加せんことを祈り居候

▲本會事業としては二ヶ所に日曜學校を經營いたし居候。毎日曜約三十名許りの兒童集會いたし候爲め、勇氣を得、及ばずながら其發展に力を盡し居候。同封の金貳圓拾八錢也誠に些少には候へども、御事業の爲めに、御用ひ下され度候。

●札幌基督敎女子靑年會

▲三月十日(日曜日)此度は組合敎會にて、例年の通り公會准任式催さる。先づ讃美歌にて開會、聖書朗讀につぎ、新任役員の披露あり、次に會計庶務の報告を終へ、會長の勸話、答辭あり。終りに大村兄の有益なる講話にて閉會せり。

▲五月十日(金曜日)午後三時半より役員會を開く。札幌高等女學校の聖書講義、暫時中止の姿なりしも役員建部姉の宅にて復興さるに就ては、會長高橋姉に講話をお願ひする事。今年は是非とも夏期講習會に代員を出席せしむる事、本月三日日本總幹事招聘の爲め今年は金貳圓出金する事、但し年々に增加する事。本會創立以來熱心に盡力せられたるミス、モンクと國井あや子姉のために送別會を開く事等を可決す。

●ウヰルミナ女學校

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

▲五月二十一日各級教室に於て、命の源なるキリストといふ題の下に集會を開く。(馬可五章廿一節より四十三節)數名の姉妹の熱心なる感話及び祈禱あり適當なる聖句或は讃美の後閉會す。

▲五月二十三日河井女史の來阪を機とし、來校を乞ひ、午後三時半より青年會に關する種々なる講話を承る。當會員の一人たる我等、いと小きものながら今後大に奮起せざるべからざることを自覺せり。

▲六月四日各級に於て青年會を開く、命のパン(馬可八章一ノ十)につき姉妹等の感話、祈禱ありて閉會す。

▲六月九日事務會を開き、青年會堂及び書籍を監督する者を二名設くることゝ決し、なほその他二三の事項につきて協議す。

▲六月十日講堂に於て西野先生の講話ありたり。

◎編輯部より

▲例年の通り八月號は九月號と合併して、夏期修養會號として、九月一日に發行する事となります故、本誌は一と月の間、皆樣と相見えぬことで御座います。暑さ日に日に加はります折柄、折角御自愛遊ばしませ。「わが身體は神の宮殿なり」と申すことは、夏期に於て特に考へ度いことでございます。

▲本會の夏期修養會に御申込みの方々も、もはや續々と御座います。折角皆樣が、暑さの折柄、遠方より多くの費用と、時間とを使つてお出て下さるのでありますから、どうかその一週間に出來る丈けのよい心身の糧を差上げたいと、委員始め本部の役員は、專心準備中で御座います。どうぞ皆樣も共に心を併せて、本會の上に特に神の御導きの加はらんやうお祈り下さいまし。

▲本誌掲載の東京女子青年會の記事に見ゆるやう、富士紡績工場で本月三日も亦工女の爲めの講話會を開きます。今回は昨今來朝のエリオット博士も、一行に加はつて、この工場を訪はるゝ筈であります。何れ委しき記事は次號を待つて御覧下さいまし。

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

廣告

院長診察（月、水、木、金、午前
入院診斷後應需）
松田、林、峰間、三副長は目下當院に在勤

東洋内科醫院

電話本局
八八八（病院用）
八九八（私宅用）

東京神田區駿河臺鈴木町二
御茶水橋附近

院長　醫學士高田畊安

神奈川縣高座郡茅ヶ崎町相海濱
從停車場半里

電チガサキ二番

南湖院

河野、高橋、兩副長は目下當院に在勤
院長診察、土曜日午後、入院、診後應需

部數	定價（郵稅共）	海外
一部	金五錢	金九錢
十二部	金五拾錢	金壹圓

廣告	
一頁	金六圓
半段	金貳圓
半頁	金三圓五拾錢
一行	金貳拾錢

明治四十五年六月廿八日印刷
明治四十五年七月一日發行

編輯兼發行人　東京市牛込區田町三丁目十二番地　エー、シー、マクドナルド
印刷人　東京市神田區美土代町二丁目一番地　島連太郎
印刷所　東京市神田區美土代町二丁目一番地　三秀舍

National Committee

Headquarters, 12Sanchome Tamachi, Ushigome, Tokyo

Mrs. Hana Ibuka, Chairman
Dr. Kei Okami, Vice-Chairman
Miss Tami Mitani, Secretary
Dr. Tomo Inouye, Treasurer
Miss Michi Kawai,
Active Member World's Committee
Chairman Women's Sub-committee
World's Student Christian Federation
Miss Matsu Okonogi,
Editor "Meiji no Joshi"

Resident Members	Non-Resident Members
Miss Ume Tsuda	Madame Asa Hirooka, Osaka
Miss A. B. West	Mrs. K. Araki, Osaka
Miss Uta Suzuki	Mrs. Koito Saiki, Kyoto
Miss Matsu Okonogi	Miss M.F. Denton, Kyoto
Miss Kita Hasegawa	Miss Michi Matsuda, Kyoto
Miss Tei Ninomiya	Miss N.B. Gaines, Hiroshima
Mrs. G. M. Fisher	Miss Wynne-Willson, Nagoya
Miss Sarah Ellis	Miss Yoshi Kajiro Okayada
	Miss M. Brownlow, Hakomate

Secretaries
Miss A. C. Macdonald, National General
Miss Ruth Ragan, National Office
Miss Margaret L. Matthew, General, Tokyo
Miss G. R. Watney, Associate, Tokyo
Miss Mary Page, Special Worker
Miss Miyo Kobashi, Assistant Editor "Meiji no Joshi"

母の典型

□定價 五十錢
□郵稅 六錢
□肖像寫眞入

皆田篤實君著

本書は稀世の天才アウガスチンをして、「我の今日ある、是は單へに我母に負ふ所だ、其祈禱に、其功德に!!」と稱せしめたる、聖モニカの生涯を詳記したるもので、モニカの傳であると共に、アウガスチンの傳である

著者は多年の研究に據り、獨特の文才を以て、モニカの誕生に筆を起し、彼女が幼兒として、處女として、生立たる多幸多福の生狀、妻として能く邪慳なる姑に事へ、又能く不信なる夫を感化したる事歷、博愛仁慈の人として、世に貢獻したる功績等、詳に之を記述して餘蘊なきが、中に、アウガスチンが才氣に馳せ、內情に捕へられて、曲折迂回、人生の暗路に迷ひ入りたるを、三十有餘年の間、忍びて之を教へ、祈りて之を誡しめ、遂に之を救うて基督教々理の歷史に光明を垂るゝまでに至らしめたる母としてのモニカが血淚の傳である

東京京橋銀座
警醒社書店
振替東京 五五三

明治四十五年七月一日納本發行(毎月一回一日發行)

明治三十七年五月七日第三種郵便物認可

YOUNG WOMEN OF JAPAN.

Meiji no Joshi

Volume. IX *July 1912.* *No. 7*

The Privilege of Giving Miss Miyo Kobashi.
God and Human Personality Mr. E. S. Woods.
The New Woman Mr. T. Shirai.
On Board a Hospital Ship during the Russian war
Miss Cho Suwo.
The Art of Imparting Knowledge to Children
Mr. T. Kurushima.
Salvation as Taught by Jesus Christ (IV) Rev. En Kashiwai.
Y.W.C.A. Summer Conference in California.
YESHUDAS, An Indian Story. (III) Conclusion
Miss A. M. Small
Translated by Miss Matsu Okonogi
Association Notes
National—The Summer Conference. Meeting for Chinese Women Students, Contributions—Tokyo Notes—Meeting at a Factory, Nurses' Meeting—Miss Tsuda's School. Aoyama Girls' School. Sapporo Y.W.C.A. Wilmina Girls' School.
Editorial Notes

The Official Organ of the National Committee of Young Women's Christian Associations of Japan

(東京神田美土代町三秀舍印行)

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

復刻版　女子青年界　第3巻
（原本誌名「明治の女子」）
1992年4月10日発行
本体価格　22、000円

発行者　船橋　治
発行所　不二出版
東京都文京区向丘1-2-12
〒113　☎03（3812）4433
印刷所　三　進　社
製本所　青木製本所
中性紙使用
乱丁・落丁はお取り替えいたします。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA

Digitized by Google

Original from
UNIVERSITY OF CALIFORNIA